令和７年度　園評価に関する報告書

１　園の目標

雑草のようにたくましい子、思いやりのある優しい子、ルールの守れる子に育てる

1.基本的生活習慣の自立に向けて“やりたい”という気持ちを大切にしながら、自立心を育てる。
2.異年齢児の関わりを大切にし、家庭的な雰囲気の中で子ども同士が自由に遊ぶことにより、子どもが子どもの中で育ち合う環境を作る。
3.豊かな言葉のある環境に留意し、正しい言葉を身につけ表現力の基礎を培い、情緒の安定を図る。
4.生活や遊びの中で、自分の意思や考えが表現出来るようにし、相手の人権を尊重し、思いやりのある豊かな心を育てる。
5.子どもの驚きや不思議に思うことを大切に受け止め、探究心・思考力・認識力を養い、目標に向かって最後までやりぬく粘り強さを身につけ“生きる力“”人を思う優しさ”を育てる。

２　達成に向けた具体的な取り組みの計画

1.一人ひとりの子どもの健康状態や発育、発達、家庭状況を把握し、信頼関係の中で情緒を安定させ、子どもの「思い」を満たせるような教育・保育を展開する。
2.異年齢の交流をもつことで、身近なモデリングや憧れの存在となり、頼ったり頼られたりすることで、優しさや思いやりの気持ち、自尊心を育てる。
3.言語の力は、人間形成の基本能力として重視し、絵本を見る、聞く、読むことを通して、ことば、もじの経験を豊富に与え、理解力と表現力の発達を促す。
4.友だち、先生、地域の方たちと関わり、触れ合う中で、優しさ、思いやり、約束、ルールの守れる協調性、社会性を育む。
5.様々な活動を通し、試行錯誤しながら挑戦する中で、知的好奇心を高め達成感や充実感を味わい、創造力の豊かな問題解決意欲の高い子どもを育てる。

３評価と課題

1.子どもが主体的に遊びに取り組めるよう、保育環境の構成や援助のタイミングについて職員間で話し合い、共通認識のもとで実践を重ねてきた。来年度は、日々の保育記録をより深く分析し、職員一人ひとりが子どもの発達の兆しを見逃さず、個々の興味・関心に寄り添ったより丁寧な幼児理解と専門性の向上に努める。

2.戸外活動や各種行事において異年齢で関わる機会を設け、子ども同士の豊かな交流が生まれた。次年度は、行事だけでなく日常の保育においても異年齢が共に過ごす場面を意識的に増やし、互いの姿に刺激を受け合う中で、年下を思いやる優しさや、年上への憧れの気持ちが自然と育まれるような温かい関係づくりを図る。

3.言語の力は人間形成の基本能力であると捉え、絵本を通して物語に親しむだけでなく、日常の保育における「問いかけ」や「対話」を重視した。次年度は、言葉遊びやごっこ遊びの中で、状況に応じた言葉選びを楽しんだり、友だちや保育教諭に自分の考えを順序立てて伝える時間を大切にする。生活の中での多様なやりとりを通じて、言葉への興味や表現力を広げ、豊かな感性と論理的な思考の芽を育んでいく。

4.地域の方々との交流を通じ、多様な世代と関わる中で、子どもたちの協調性や社会性が着実に育まれた。次年度も継続して地域の方や高齢者の方とのふれあいの場を大切にし、実際の交流の中で自然と挨拶やマナーを学び、他者をいたわる心や感謝の気持ちを育み、地域に根ざした豊かな人間関係を広げていく。

5.異年齢交流や遊びの体験を通じ、友だちと譲り合ったり、自分で疑問を解決しようとしたりする自主的な姿が多く見られた。この主体的な姿勢をさらに伸ばすため、子どもたちの「なぜ？」という問いに保育教諭が共に考え、探求する姿勢を大切にする。自分で答えを見つけ出す喜びを分かち合い、子どもの探究心を存分に発揮できる機会を保障していく。